

Title	大阪大学歯学雑誌 第63巻1号 目次
Author(s)	
Citation	大阪大学歯学雑誌. 2018, 63(1)
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/71594
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

大阪大学歯学雑誌

The Journal of Osaka University Dental Society

October 2018 Vol.**63** No.**1**

大阪大学歯学会

The Osaka University Dental Society
OSAKA JAPAN

大阪大学歯学雑誌

Vol. 63 No. 1 Contents

規 定

- 平成 30 年度 大阪大学歯学会 優秀研究奨励賞 規定
平成 30 年度 大阪大学歯学会 優秀海外発表大学院生奨励賞 公募要項

総 説

- Streptococcus mutans* の歯髄組織への定着における
菌体表層コラーゲン結合タンパクの影響 ————— 鋸 屋 侑布子 (他 2 名) 1
Advanced statistical analyses to reduce inconsistency of bond strength data ——— 南 野 卓 也 (他10名) 5

症例報告

- 両側第二大臼歯の鉗状咬合と上下前歯部の唇側傾斜を認める,
骨格性上顎前突の一治験例 ————— 八 木 弘 子 (他 1 名) 9

Information

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 会務報告 ————— 15 | 教室研究紹介 |
| 大阪大学歯学会会則 ————— 21 | 大阪大学大学院歯学研究科 歯科麻酔学教室 ————— 27 |
| デジタルデータ出稿の詳細 ————— 24 | |
| 引用文献の表記ルール ————— 24 | |
| 歯学会雑誌原稿投稿時のセルフチェックシート — 25 | |
| 誓 約 書 ————— 26 | |

表紙のことば

これまで、発達障害のモデルマウスを用いて、脳構造や神経機能の変化と情動行動異常発現の関連について追究してきました。写真では、下段に示した発達障害モデルマウスの脳海馬領域において、グルタミン酸輸送体の局在(左下の矢頭の付近)と同領域でのグリア細胞の発現パターン(右下)が変化していることを示しています。近い将来に、口腔疾患で併発される情動変化の基礎研究へと展開できればと考えています。(薬理学教室)

規 定

- 平成 30 年度 大阪大学歯学会 優秀研究奨励賞 規定
 平成 30 年度 大阪大学歯学会 優秀海外発表大学院生奨励賞 公募要項

総 説

- “Sit down and be quiet” シグナルの発見
 —パラアミノ安息香酸による歯周病菌の制御— 久保庭 雅 恵 (他 2 名) 1

症例報告

- 下顎埋伏智歯抜歯時において
 歯根の組織内迷入を認めた 3 症例に関する臨床的検討 小 倉 秀 (他 6 名) 5
 抜歯時に矯正用セパレーションを応用する有益性について 山 本 敬 子 (他 1 名) 11

Information

- | | | | |
|-----------------------|----|-----------------------|----|
| 会務報告 | 17 | 教室研究紹介 | |
| 大阪大学歯学会会則 | 23 | 大阪大学大学院歯学研究科 歯科放射線学教室 | 29 |
| デジタルデータ出稿の詳細 | 26 | | |
| 引用文献の表記ルール | 26 | | |
| 歯学会雑誌原稿投稿時のセルフチェックシート | 27 | | |
| 誓 約 書 | 28 | | |